和文抄録

中高年者の公園利用と QOL の関係
サードプレイス概念の援用

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119032
氏　名：陳　天怡

【目的】

本研究は中高年者を対象に、サードプレイス概念を援用して公園利用と QOL の関係を明らかにすることを目的とする。

【方法】

Google フォームを用いた Web 調査で、4 台のタブレットによる入力と、調査対象者自身が QR コードを読み取り Web 調査サイトにアクセスし、スマートフォンから入力する方法を用いた。同様の内容の質問紙を用意した。公園利用者に個別に調査協力を依頼し、協力が得られた場合のみ本調査の趣旨・目的等を説明した。その場で回答してもらった。QOL は SF-８の質問票により測定された。この質問票は身体機能、日常役割機能・身体、体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、日常役割機能・精神、心の健康から構成される。QOL とそれ以外の項目との関連は、分散分析と t 検定を使って分析された。

【結果】

有効回収数は 136 部であった。対象者のうち年齢別に QOL をみると、PCS 平均値(SD)は中年者が 51.33(5.80)、前期高齢者が 52.05(5.04)、後期高齢者が 49.10(6.46)であったが、MCS 平均値(SD)は中年者が 48.67(5.09)、前期高齢者が 52.84(3.55)、後期高齢者が 52.74(4.44)であったが、この得点は、日本の高齢者を対象とした先行研究での得点よりも高いものであった。公園をサードプレイスとし、公園に 30 分以上滞在する公園利用者は、全体的な健康状態や精神的な健康状態が良好で、QOL が高いことが示された。

【結論】

中高年者を対象に、公園利用とサードプレイスの視点から、彼らが生活の中でおこなっている公園利用の実態や居心地と QOL がどのような関連があるかを明らかにしようとしたものである。高齢者の公園利用と QOL の高さとの間には正の関連があることが明らかになった。また、公園をサードプレイスとするものの QOL が高いことが示された。 特に公園利用においてキーワードとなるのは、友人や仲間との交流であった。